

会 議 録

会議録	令和8年度 第1回豊田市公共交通会議
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 令和8年度豊田市公共交通会議委員について 4 豊田市公共交通会議について 5 議 事 <協議案件> (1) (令和9年度分) 地域公共交通確保維持改善事業について (2) (令和8年度分) 地域公共交通確保維持改善事業の変更申請について <報告案件> (1) 令和7年度バス利用の状況等について (2) おいでんバス高齢者及び子ども向け施策の実績報告について (3) 令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画について 6 連絡事項 7 閉会
日 時	令和8年6月25日(木) 午後2時30分～午後4時
場 所	豊田市役所 東庁舎7階 東大会議室1、2
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】 松本 幸正 (名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授) 【副会長】 山岡 俊一 (豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授) 後藤 哲也 (社会福祉法人豊田市社会福祉協議会常務理事) 天野 正直 (豊田市区長会理事) 勝野 隆 (豊田市高齢者クラブ連合会副会長) 釘宮 順子 (豊田市ボランティア連絡協議会会長) 宮市 達也 (豊田商工会議所専務理事) 【監事】 内藤 真一 (名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当主務) 後藤 泰之 (名鉄バス株式会社首席交通企画官兼運輸本部地域交通部地域交通課長)</p> <p>横田 太 (豊栄交通株式会社専務取締役) 寺澤 秀樹 (愛知環状鉄道株式会社総務部次長兼経営企画課長) 小島 康史 (愛知県タクシー協会豊田支部長) 小林 裕之 (公益社団法人愛知県バス協会専務理事) (代理 徳田) 中村 雄太 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事) 高橋 治 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所計画課長) (代理 松田) 原田 光一郎 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官) (代理 山田) 高臣 綾子 (愛知県都市・交通局交通対策課担当課長) (代理 岩川) 阿部 雄一郎 (愛知県警察豊田警察署交通課長) (代理 原) 園生 賢一 (愛知県警察足助警察署交通課長) (代理 加藤) 鈴木 学 (豊田市副市長) 【会長】 角谷 元 (豊田市都市整備部長)</p> <p>【欠 席】 加藤 正治 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課長) 小林 利光 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課長)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部 交通政策課</p>
資 料	1 次第 2 令和8年度 第1回豊田市公共交通会議 会議資料

<協議案件>

(1) (令和9年度分) 地域公共交通確保維持改善事業について

- 事務局 【協議1】に基づき説明。
- 委員 おでかけパス70や新規施策は制度設計だけでなく周知が重要。対象者への周知方法を確認したい。
- 事務局 高齢者クラブへの説明を通じて周知を実施した。また、高齢者の利用が見込める市内施設へポスターを掲示した。
- 委員 おでかけパス70は、自分の周りでも利用している人がいるため、更なるPRを期待する。また、高校生向けバス通学定期補助事業が好評とのことだが、どのくらい補助を受けている人がいるのか。
- 事務局 昨年度の申請人数は537名、補助金額は2,670万円余である。通学定期券の販売枚数は、事業実施前の令和6年度と比較すると15%増加している。
- 委員 大沼線について、災害の影響で長期間一部運休となっている。今後の対応はどのようなか。
- 事務局 対応方針を名鉄バスと情報共有しながら、状況を注視していく。
- 委員 おでかけパス70のクーポン券を利用できる施設について、選定基準はあるか。昨年度の実績では利用された施設に偏りがみられるが、ニーズは考慮しているか。
- 事務局 おいでんバスや地域バスを利用してアクセスできる施設を中心に、全市域でバランスをみて選定した。おでかけの目的も重要だと考えているので、市の施設を中心に、移動の後押しとなるよう高齢者やそのご家族にニーズがあると思われる体験施設を選定した。
- 委員 高校生向けの補助制度を実施したことにより、通学手段に変化はあったか。別の交通手段や家族による送迎だったものがバス移動に変わったのか。
- 事務局 本補助制度を申請した高校生を対象に、事業実施前後の通学手段についてアンケートを行った結果、家庭による送迎が17%から14%に減少した。単純に考えれば、家庭の送迎からバス通学に変わったと捉えることができる。
- 委員 地域内フィーダー系統補助として、稲武と藤岡の地域バスのみが対象になっているのはなぜか。また、補助の対象かどうかでバス運営に違いは出るのか。
- 事務局 補助対象となるには要件があるほか、国の地域内フィーダー系統補助金の予算も限られているため、現状豊田市ではこの2路線が補助対象となっている。なお、補助対象となっていない地域バスについても、各支所を中心に利用状況を確認しながら運営しているので、補助対象かどうかによる運行上の差異はない。
- 議長 補助金に該当しない路線は市が全額補助しているので、運営に関しては同じように行われている。
- 議長 愛知運輸支局との最終調整による資料の微修正は、事務局に一任する。

«協議結果：承認»

(2) (令和8年度分) 地域公共交通確保維持改善事業の変更申請について

- 事務局 【協議2】に基づき説明。
- 議長 車両導入の計画申請を取り止めるというのは、国土交通省の補助金で購入する必要がなくなったということか。
- 事務局 ディーゼル車に充てられる補助金を申請していたが、燃料電池バスを導入する予定のため、国の別補助金で対応する方針へ変更することとした。

«協議結果：承認»

<報告案件>

(1) 令和7年度バス利用の状況等について

- 事務局 【報告1】に基づき説明。

- 委員 交通事業者5社から令和7年度の状況について口頭で報告。
- 委員 バス西口集約に関して、名鉄からバス乗り場に向かうには、地上に降りて横断歩道を渡る導線になっている。安全面を考えるとペDESTリアンデッキから直接バス乗り場に降りられるような導線があると良い。
- 事務局 5番のりば側は愛知環状鉄道方面から名鉄方面に向かう方向の階段で、ペDESTリアンデッキから直接バス乗り場へ降りられる。1～3番のりば側にはT-FACE内の階段で降りられるようになっているが、名鉄方面からだ階段が入り組んでいるので、その階段の存在を市民にはあまり知られていない状況でもある。
- 委員 中東情勢の影響による燃料費高騰を受け、通勤手段を車から公共交通機関に変更したなど、利用者数に変化はあるか。また、鉄道についてホームや階段の安全面が気になっている。ホームドアの設置などの対策は検討しているか。
- 委員 直近4月の利用者数は前年より増加しているが、燃料費高騰の影響かどうかは不明である。
- 委員 車から公共交通機関に乗り換える人が増えている実感は特にない。
- 委員 ホームドアは順次設置駅を増やしているが、現状豊田市内の駅について設置予定はない。階段の導線については、ホームへの係員配置などをしてはいるが人員に限界もあるので、繰り返し利用者にマナーの徹底をお願いしていく。
- 委員 費用の問題だけでなく、高架駅は構造上重量のあるホームドアの設置が難しい。
- 議長 事故が起きる前にぜひ対策をお願いしたい。軽量なもので安全を確保できる方法もあると思うので、検討材料にしてほしい。
- 委員 中心市街地玄関口バスの利用者数が大幅に減少している要因は何か。また対策は考えているか。
- 事務局 豊田市と広路町のバス停の利用者数が減少しているが、直接的な原因は分かっていない。令和7年度の状況だけでは判断できないので、今後の動向を注視していく。令和7年4月に豊田市駅周辺にスーパーができたので、それが影響している可能性もある。
- 委員 駅前にスーパーができてから周辺駐車場が混むようになったので、影響はあると思う。ただ、広路町バス停近くに大型家電量販店がオープン予定なので、そうなるともまた人の動きが変わる可能性があるのではないかと。
- 議長 中心市街地が賑わい、回遊できる手段があることが重要である。公共交通が、街が発展していく支えになれると良い。
- 議長 資料に地域バス・地域タクシーのまとめの記載がないが、評価はどうか。
- 事務局 地域バスの利用者数は伸び悩んでいるが、地域住民がバスに乗ることで維持しようという動きが地域の中にあるので、単純な利用者数で評価はできないと考えている。また、共助交通との組み合わせも踏まえて評価する必要がある。地域タクシーは限定的なエリアで運行しており、利用者が固定化している状況にある。松平地域タクシーは、松平地域全域が運行エリアになっていることや今後も高齢者人口が増加することから、利用者数も増加すると見ている。地域によって大きく特徴が異なる状況である。
- 議長 地域ごとに状況が違うので選択する交通手段も異なるのは当然だが、PDCAを回していくためには評価が必要である。ぜひ評価を地域へフィードバックし、改善につなげてほしい。
- 議長 高校の生徒数が今後いつピークを迎えるのか、見積もっておいた方が良い。この先必ず人口が減少することが分かっているので、通学利用に依存するのではなく、新規利用者の獲得も並行して行わなければならない。

(2) おいでんバス高齢者及び子ども向け施策の実績報告について

- 事務局 【報告2】に基づき説明。
- 委員 子どもモニター事業について、JRと愛知環状鉄道が対象になっていないのはなぜか。
- 事務局 manacaのマイレージポイントサービスを活用した事業であるため、マイレージポイントが使用できないJR・愛知環状鉄道は対象外となる。
- 委員 子どもモニター事業で地域の行動履歴は把握できているか。また、利用者がただ得をするだけではなく、公共交通に関する課題を考えてもらうことも必要ではないか。
- 事務局 子どもモニターのバスの乗降履歴は把握しており、利用施設も降車場所からおおよそ推察ができています。その分析を踏まえて、今年度実施する学び体験チケットの利用対

- 象施設を検討した。行って楽しむだけではなく、教育的機会にもなり、かつ公共交通利用の機運醸成を図るという目的を見失わないように事業を展開していく。
- 議 長 小学校から出前授業の要望はないか。
 - 事務局 本事業で直接依頼はないが、毎年希望がある小学校でバスの乗り方教室を開催している。学校との連携も今後検討していきたい。
 - 議 長 おでかけ教室などの機会があると、事業の意義も含めて宣伝ができる。
 - 議 長 高齢者向け・子ども向け共に、良いお出かけの仕組みになっていると思う。ぜひ効果の測定もしっかりやってほしい。効果が出てくれば他の自治体にも横展開ができ、より幅広い公共交通の利用促進につながる。結果として、高齢者はお出かけが増えて健康になり、子どもたちは自立して移動できる、という環境になっていくと思う。期待している。

(3) 令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画について

- 事務局 【報告3】に基づき説明。
- 委 員 バス運転体験会及び交通事業者企業説明会を令和8年10月に開催予定とのことだが、10月10日(土)に中部バス協会主催で合同就職説明会を開催する予定なので、可能であればこの日程を避けてほしい。
- 事務局 承知した。
- 議 長 電車・バスのおでかけスタンプラリーのような企画は、子ども向け事業と実施時期が重なるか。時期が重なればおでかけする目的が増えるので、より公共交通の利用を促進することができる。
- 事務局 事業を企画する際の参考にさせていただく。
- 議 長 今年実施するのは、子どもたちがバスに乗ると乗車運賃がポイント還元されるという事業だが、そもそも目的がないと乗ってもらえない。積極的に利用してもらうためには学び体験チケットの配布だけでなく、まちづくり、商工会、教育など関係機関と連携して、同時期に目的をたくさんつくと良い。
- 委 員 豊田市全体の話として、事業ごとに様々なポイント制度を導入している印象がある。せっかく42万人という人口規模があるので、ポイントを統一したり相互利用可能にしたりするなどしてはどうか。交通事業者も参画できると良い。
- 事務局 今回は、公共交通に最も親和性の高い交通系ICカードでポイント還元事業をするが、将来的には観光分野等との連携を見据えて、協議していく方向である。

以上